

ヘブル人への手紙 4章 11-13節 はるかに力ある神のことば

今朝は、ヘブル人への手紙 4章 11節から 13節まで聖書を開いてください。先週、安息について述べた際に締めくくったのと同じ箇所であることは承知していますが、これらの聖句に込められた神の言葉という概念そのものに焦点を当ててみると、さらに深い意味が浮かび上がってきます。その前に、この箇所の前の文脈を思い出しておきましょう。著者は詩篇 95篇を引用しており、ヘブル人への手紙 4章 7節には、「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なに**してはならない**」と書かれています。つまりこれらの聖句は、神が語られ、私たちがそれを聞き、従うべきだという考えと結びついています。かつて神はモーセや預言者たちを通して語られましたが、今や私たちは、神が私たちに与えようとしておられた他のすべての言葉と共に、聖書の中で同じ言葉を読みます。それは、今日神の声は私たちに語りかけているのを聞くのと同じことなのです。11節から始めたいと思います。この節は、神の御言葉に関するこれらの箇所を、安息というより広い文脈へと結びつけています。**11 ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息に入るように努めようではありませんか。**前回この箇所を取り上げた際、私が明確にしなかった点は、キリストにある安息と、律法を守ることによって自らの救いを確保しようとする働きとの間に、対比が示されているという事実です。このように働きへと導く伝統ではなく、安息へと導く福音に従うという文脈を踏まえて、12節から 13節に進みます。ここには、聖書すなわち神の言葉について具体的に語られています。それでは、これらの節を読みましょう。**12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。**この二つの聖句において、著者は、神の安息に入らないことがなぜとても危険なのかを説明しています。前回のヘブル人への手紙の説教の締めくくりとして、神の安息に入らないということは、イエス・キリストを信じないことであり、不信仰は不従順であることを指摘しました。神への不従順は致命的です。なぜなら、神の言葉は力強く、その言葉が明らかにする罪に対する罰から逃れることはできないからです。今日は、**神の言葉の力がどこから来るのか、そして私たちが神の力強い言葉を読み、適用する際に、それが私たちに何の意味するのかに焦点を当てたいと思います。**

12-13節は「…**神のことば**…」という言葉で始まりますが、神の言葉がなぜ力強く、従うべきものであるのかを理解するためには、まさにここから始める必要があります。神の言葉とは、神が語られる言葉と考えることができます。そして、それは重要なことです。なぜなら、私たちは聖書、すなわち神の言葉を、神ご自身とは切り離して捉えてはならないからです。人が口にしたり書く言葉とは、その人の考えや態度を反映しているからこそ、その人そのものだと考えることができるのです。私は日本の作家、遠藤周作が好きです。遠藤は多くのノンフィクションの本を執筆しましたが、おそらく多くの人々、特に英語で読んでいた人たちは、彼のフィクション作品の方がより馴染みがあるでしょう。もちろん「沈黙」が最も有名ですが、彼の小説はどれも本当に素晴らしいと私は思います。もちろん、私は遠藤周作に会ったことはありません。彼が亡くなったのは私が大学在学中のことでした。仮に会えたとしても、彼を本当の意味で知ることは到底できなかったでしょう。しかし、彼の小説の中にも、遠藤という人間の本物の思考や思想、特にローマ・カトリックを通じて体験した文化、宗教、キリスト教に関するものが息づいています。聖書は完全にノンフィクション、事実に基づいた書物です。イエスが語られたたとえ話もありますが、私たちの信仰告白である『バプテスト信仰とメッセージ』が述べているように、聖書は…誤

りが混ざっていない真理です。私たちがそう言えるのは、聖書は神の言葉、すなわち神ご自身が語られた言葉だからです。もちろん、神がこの言葉を語られたのは、人間の著者たちを通してであったと私たちは信じています。しかし、その人間の著者たちがどのように書いたかについて、ペテロの手紙第二 1 章 20-21 節に記されていることに注目してください。20 ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。21 預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。つまり、確かに人間の著者は存在しますが、聖霊の直接的な導きの元で、書かれることを神が意図した内容とは異なるものを書いた者は、その著者の誰一人としていません。私たちは、その導きを神学用語で「靈感」と呼びます。そして、聖霊の神聖な導きによる聖書の靈感は、聖書こそが神の言葉であることを意味するのです。

12 節では、神の言葉が私たちの生活の中でどのような働きをするのかが述べられています。そして、神の言葉は神と同じ性質を備えています。ですから、この節は「生ける」という言葉で始まります。神が生きているのと同様に、神の言葉も生きています。だからこそ、その言葉は「力がある」のです。神はただ天のどこかで座り込み、この世の出来事を眺めているだけではありません。神はこの世のすべてに対する主権的な摂理によって、ご自身の目的を積極的に追求しておられるのです。そして私たちの内で行おうと神が選ばれた御業は、御言葉を通して成し遂げられるのです！この 2 節の残りの部分では、私たちの内で行われる働きについて説明されていますが、神の言葉は生きていて力があるというこの考えを、早々と読み飛ばしてはいけません。私たちは人生において、自分自身をより良い方向に変えようと、さまざまなことをしています。私より頑張っている人もいるでしょうが、健康的な食事を心がけたり、運動をしたり、ビタミンを摂ったりします。様々な方法で瞑想する人もいます。本を読んで知識を深めたり、特定の考え方に心を鍛えようと努めたりもします。私たちの生活において、カウンセリングもそのように分類されるでしょう。それらはどれも悪いことではありませんが、神が創造された人々の人生の中でなされる神ご自身の働きは、どれほどそれらよりも素晴らしいことでしょう！神こそが私たちを創造された方であることを忘れないでください。実際、エレミヤ書 1 章 5 節で、神は預言者エレミヤにこう言われました。「わたしは、あなたを胎内に形造る前からあなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。」そして、私たち 1 人 1 人は神によって特別に造られたのです…神は私たちが生まれる前から私たちを知っておられ…ご自身の栄光のために私たちを形造られました。もし、私たちの創造主である神が、私たちの生活の中で働きかけることができる、生きていて力がある書物を私たちに与えてくださるのなら、その創造主から直接私たちに語りかける書物は、私たちの生活へ語りかける上で最も重要なものとなるはず です。

この箇所を読み進めていくと、聖書が私たちの内でもどのように働きかけるかが分かります。著者は、神の言葉を「(どの) 両刃の剣よりも鋭い」と表現しています。前回のヘブル人への手紙の説教でも、この点について、私たちが福音に従うか否かによって、剣の両刃は全く異なる二つの働きをもたらすという観点から話しました。もし私たちが神の言葉を読み、あるいはその宣教を聞き、自分は聖なる神に対して罪を犯した被造物であり、自分自身の力では得られない罪からの救いを必要としているという御言葉の主張を受け入れるなら。そしてその理解に応じて、テモテへの手紙第一 1 章 15 節にあるように、キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られたという福音のメッセージを私たちが信じ、受け入れるなら。そしてイエスを信じることにより私たちは従順に応答し、ヨハネの福音書 3 章 16 節に描かれている結果となるのです。16 神は、実に、

そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。しかし、聖書の主張を受け入れなかったり、キリストへの信仰における呼びかけに従わないことを選んだ者たちには、刃の反対側を使って聖書はこのような宣言をしています。18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかっている。神のひとり子の名を信じなかったからである。聖書全体を貫く中心的なテーマは、贖いです。創造と墮落の中にその必要性を、イエスを通して救い主をこの世に送り出すためにイスラエルに神の民を創造することの中にその備えを、十字架の死と復活の中にその贖いの業を、そして聖徒たちと共に永遠に神の栄光に生きる中にその贖いの目的を、私たちは見出します。しかし、その壮大な贖いの物語の中で、私たちが神の民として形作るような方法で、神はご自身を私たちに示してください。しかしそれは単に一つの民族を形作るだけではなく、1人1人を形作り、神が私たちに望まれるような人へと変えていくのです。つまり、それは罪人に対して正義を下す死刑執行人の剣のようにもなれば、外科医のメスのようにもなり得ます。メスは私たちの内側に深く入り込み、人生における具体的な罪を暴き、それを指摘し、聖霊の力によって取り除いてくれるのです。剣がたましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができると表現されている言葉にもこのことは表れています。

神の言葉は神ご自身から来ているため、それは生きたものであり、私たちに神を明らかにし、その聖なる神の光の中で私たちの本当の姿を露わにするために、力強く働いています。つまり、神の言葉の中に、神が私たちに語りかけ、私たちが聞くべきことを告げておられるのを見出すのです。そしてその聞くべきことによって、私たちは神の聖さと御心により深く調和していくのです。時には、自分以外には隠れていると思い込んでいた罪を暴くために、神の言葉のまばゆい光が必要になることもあります。また時には、判断が難しい善悪や、倫理的・非倫理的な行動を見分けるために、その同じ神の言葉が助けを慎重に与えてくれることもあります。また、神の存在を保証する詩篇が私たちの慰めとなることもあります。例えば詩篇 23 篇 4 節にはこのように書かれています。4 たとえ 死の陰の谷を歩むとしても 私はわざわざを恐れませんが、あなたがともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖 それが私の慰めです。その言葉を読むとき、あなたが読んでいるのは、御霊によってあなたの中に宿り、あなたの心の思いや意図をすべてご存知である、全知の神ご自身の御言葉であることを忘れないでください。だからこそ、神はあなたが助けを必要とする時に、まさにあなたに伝えなければならないことを語ってくださるのです。それにもかかわらず、私たちの聖書は、あまりにも頻繁に放置されたままになっています。神が私たちと分かち合い、語りかけ、私たちの人生に御自身の栄光を現そうと願っておられる神の全ての言葉は、私たちの指先、さらにはスマートフォン上でも手に入るのです。その御言葉を軽んじることは、私たち自身に危険を招くこととなります。それが 12 節の要点です。ここにある言葉を用いて、人間には魂と霊が別々に存在するという教義的な主張をしようとする人もいますが、著者は単に、裁きの剣として用いられる神の御言葉が持つ正確さと詳細さを示すために、関連する用語を用いているだけのように思われます。関節と骨髄についても同様です。実際、人間の身体において、関節の肉と骨髄の肉を明確に区別し、切り離すことのできる特定の箇所など存在しません。この比喻は、科学的あるいは神学的であることを目的としたものではなく、神の御言葉が私たちの存在の最も深い部分にまで浸透していく様子を、生き生きと描き出すためのものです。

また、著者は、神の御言葉によるその浸透とは、私たちが神から自分のありのままの姿を隠すことはできないということの意味していることを明確にしておきたいのです。13 節はこの考えをそ

の点で締めくくっています。13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。2週間前、これらの聖句は神から隠れることはできないということの意味する、と指摘しました。教会の中でさえ、自分が神の民の一人であるかのように他人を欺くことはできるかもしれませんが、自分の真の霊的な状態について神を欺くことはできません。しかしこの箇所は、単に裁きに対する否定的な警告であるだけでなく、神が私たちを知っておられるという肯定的な宣言でもあります…そしてそれは良いことなのです！まず注目すべきは、著者が神の言葉について語る話から、神ご自身について語る話へと、滑らかに移行している点です。彼は「神の御前」や「神の目」という言葉を使っています。これは、神の言葉と神ご自身との密接なつながりを改めて示しています。この二つは決して切り離すことはできず、つまり、神の完全性は神の言葉に内在しているのです。しかしこの最後の節を、単なる裁きという視点とは異なる観点からどのように捉えることができるでしょうか。これは、ジャン・カルヴァンが『キリスト教綱要』の「神を知ること、自分自身を知ること」の部分で述べている要点です。彼は次のように指摘しています。「人間がまず神の御顔を仰ぎ、自らを見つめることを終えて、自らを吟味するに至らなければ、決して自分自身を明確に知ることはできない、というのは確かである」。私はこれを「神に対する見方が明確であればあるほど、自分自身、自分の罪、自分の必要、そして自分が神にどれだけ頼っているかについても、より明確に理解できるようになる」と要約します。神を知ることなくして、自分自身のことや自分にとって何が最善であるかを知ることができません。つまり、私たち自身を理解する上で、神の言葉は絶対に欠かせないものとなります。そして神の言葉は、神ご自身からの賜物となるのです。それは、この聖句に先立つ多くの議論の焦点となってきた、イスラエルが歩んだ不従順の道を、私たちが歩まないようにするためです。たとえ神の摂理が私たちの人生においてどのような試練をもたらすとしても、神の言葉を通して、私たちは神について学び、神を信頼するようになるのです。神について知り、神を信頼すればするほどに、神に対する私たちの満足感は深まります。神は私たちの望むもの、必要とするものすべてとなり、私たちの心の最も深いところにある願いは、神において満たされるのです。だからこそ、私たちは神の御言葉を学ぶ生徒であり続けなければならないのです。そこに記された真理や教理は、私たちの生活の中心であり続けなければなりません。そして聖書の中心にあるものは、私たちの生活において最優先されるべきです。聖書の中心的なメッセージは物ではなく人、すなわちイエス・キリストなのです。神の御言葉の中にいることは、私たちがキリストへと導き、キリストを信じるならば、やがてキリストに似た者へと変えていきます。イエスは、肉となった神の御言葉そのお方なのです。ヨハネの福音書 1 章 14 節ではこのように書かれています。14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。キリストに従う神の民としての私たちの目標は、イエス・キリストのようになることです。そして私たちのために死んでくださった、肉となられた御言葉のようになるためには、その御言葉が私たちに啓示される書かれた御言葉を学び、知る必要があります。御言葉の人となり、神の御言葉に浸り、神の御言葉とイエス・キリストを知り、その力ある御言葉によって自分の人生を変えましょう。祈りましょう。

Hebrews 4:11-13 God's powerful Word はるかに力ある神のことば

Open your Bibles this morning to Hebrews 4:11-13. I know these are the same verses we ended with last week as we talked about rest, but there is more here as we consider just the idea of God's Word in these verses. Now before we do that remember the context of what came before this. The writer was quoting from Psalm 95, and in [Hebrews 4:7](#) says, "Today, if you hear his voice do not harden your hearts." These verses then are connected to the idea that God speaks and we should listen and obey. In the past God spoke through Moses and the prophets, but now we read those same words in the Bible along with all the other words that God intended for us to have, and it is the same as hearing his voice speak to us today. I want to start at verse 11, which connects these verses about the Word of God back to the broader context of rest. **¹¹ Let us therefore strive to enter that rest, so that no one may fall by the same sort of disobedience.** One point I did not make clearly last time we addressed this is the fact that there is a comparison being drawn between the rest we find in Christ and the work of trying to provide for our own salvation by keeping the law. Then given that context to obey the gospel that leads to rest, rather than tradition that leads to work, we come to verses 12-13 that speak specifically of the Bible, the Word of God. Let's now read these verses. **¹² For the word of God is living and active, sharper than any two-edged sword, piercing to the division of soul and of spirit, of joints and of marrow, and discerning the thoughts and intentions of the heart. ¹³ And no creature is hidden from his sight, but all are naked and exposed to the eyes of him to whom we must give account.** In these two verses, the writer is explaining why it is so dangerous to not enter into God's rest. We ended the last sermon from Hebrews pointing out that to not enter God's rest is to not believe in Jesus Christ and unbelief is disobedience. Disobedience to God is fatal, because the Word of God is powerful and you cannot escape the punishment that it reveals again sin. **Today I want to focus on where the power of the Word of God comes from, and what that means for us as we read and apply God's powerful Word.**

Verses 12-13 begin with the words, "...[the Word of God](#)..." and that is where we actually need to start to understand why God's Word is powerful and should be obeyed. The Word of God could be thought of as the Word that God speaks. And that is important because we should not see the Bible, the Word of God as separate from God himself. The words a person speaks or writes could be thought of as being that person since those words reflect their thoughts and attitudes. I like the Japanese author, Shusaku Endo. Endo wrote a lot of non-fiction, but probably most people, especially those reading in English, are most familiar with his fiction works. And while Silence is of course his most famous, I think all of his novels are really good. Now of course, I never met Shusaku Endo. He died while I was in college. And even if I had, there is no way I could have actually gotten to really know him. But even in his fiction writing, the real thoughts and ideas of the man Endo are present, especially ones related to culture, religion and Christianity as experienced through Roman Catholicism. The Bible is completely non-fiction. There are parables that Jesus tells, but as our Statement of Faith the Baptist Faith and Message puts it, The Bible is... [truth, without any mixture of error](#). The reason we can say that is because it is the Word of God or the Word that God himself has spoken. Of course, we believe that the way he spoke this Word was through human authors. But notice what we read about how those human authors wrote in [2Peter 1:20-21](#). [20 knowing this first of all, that no prophecy of Scripture comes from someone's own interpretation. 21 For no prophecy was ever produced by the will of man, but men](#)

spoke from God as they were carried along by the Holy Spirit. So, yes there are human authors, but not a single one of those authors wrote anything that was different than what God intended to be written under the direct guidance of the Holy Spirit. We call that guidance the theological word, “inspiration.” And the inspiration of Scripture by the divine leading of the Holy Spirit means that it IS the Word of God.

As verse 12 continues we see a description of what the Word of God does in our lives. And as the Word of God it shares the same characteristics of God. So, it begins with the word, “**living**.” Just as God is living, his Word is living. And as something that is alive in the same sense that God is alive, that Word is “**active**.” God is not just sitting around in Heaven somewhere watching things in this world unfold, he is actively pursuing his purposes by his sovereign providence over everything in the world. And the work he chooses to do inside of us, he does through His Word! The rest of these two verses are explaining that work within us, but we should not too quickly skip over this idea that God’s Word is living and active. We do so many things in our lives to try to change ourselves for the better. We try to eat healthy, okay, some of you more than me. We try to exercise. We take vitamins. Some people meditate in various ways. We read and try to educate ourselves or train our minds to think in certain ways. Counseling can fall into that category of things in our lives. None of those things are bad, but how much better is the work of God himself in the lives of those he created! Remember God is the one who created us. In fact, to the prophet Jeremiah in [Jeremiah 1:5](#), God said, “[Before I formed you in the womb I knew you, and before you were born I consecrated you; I appointed you a prophet to the nations.](#)” And each one of us has been specially created by God...he knew us before our birth...he formed us for his glory. And if God our creator then gives us a book that is **living and active** so it can work in our lives, then that book that speaks directly to us from our creator should be primary in speaking into our life.

As this passage continues, we see how the Bible works within us. The writer describes the Word of God as **sharper than any two-edged sword**. I talked about this in the last sermon from Hebrews from the perspective that the two sides of the sword offer two very different applications depending on our obedience to the gospel. If we read the Word of God or hear it proclaimed and we accept its claims that we are created beings who have sinned against a holy God and in need of a salvation from our sin that cannot come from within us. And if in response to that understanding we also believe and accept the message of the gospel [that Christ Jesus came into the world to save sinners](#) according to [1 Timothy 1:15](#). And then we respond in obedience by believing in Jesus, the outcome will be the one described in [John 3:16, 16](#) “[For God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life.](#) But for those who choose to not accept the bible’s claims or obey its call to faith in Christ, the Bible with the other side of the blade declares in [John 3:18](#) [Whoever believes in him is not condemned, but whoever does not believe is condemned already, because he has not believed in the name of the only Son of God.](#) The main idea of scripture that runs through the entire Bible is redemption. We see the need for it in the creation and fall, the provision for it in creating a people of God in Israel to bring a Savior into the world in Jesus, the act of redemption in the crucifixion and resurrection and the goal of redemption in God’s eternal glory with his saints for eternity. But in that grand narrative of redemption, God reveals himself to us in ways that shape us into the people of God. But it doesn’t just shape a people, it shapes and changes a person to be the person God wants us to be. So, it can be like the executioner’s sword bringing

justice against sinners or it can be the surgeon's scalpel, reaching into us to uncover and convict us of specific sins in our lives and remove them by the Holy Spirit's power. This is seen in the words that describe this sword as, **piercing to the division of soul and of spirit, of joints and of marrow, and discerning the thoughts and intentions of the heart.**

Because God's Word is from God himself, it is living and actively working to reveal God to us and expose the real us in light of that holy God. That means that in God's Word, we find God speaking to us and telling us what we need to hear that will align us more closely with his holiness and purposes as we obey that Word. Sometimes that means that we need the glaring light of God's Word to expose sin that we think is hidden to anyone but us. Sometimes we need that same Word to carefully help us divide between right and wrong, ethical and unethical actions that are hard to determine. Other times it is the comfort of a Psalm that assures of God's presence like **Psalm 23:4, Even though I walk through the valley of the shadow of death, I will fear no evil, for you are with me; your rod and your staff, they comfort me.** Remember that when you read those words, you are reading the very Words of the all knowing God, who indwells you by his Spirit and knows the very **thoughts and intentions of your heart**, so he can say exactly what needs to be said to you in your time of need. And yet, our Bibles too often sit neglected. All of God's Words available to us at our fingertips, even on our phones, that God desires to share with us and to speak to us, to work his glory in our lives. We neglect that word at our peril. That is the point of verse 12. Some have tried to use the words here to make a doctrinal point about humans having a separate soul and spirit, but it seems like the writer is simply using related terms to show the precision and detail that God's Word has when it is used as a sword in judgment. It is the same for joints and marrow. In reality, there is not one particular point where you could cut and separate joint flesh from the flesh of marrow in a human body. The details are not meant to be scientific or theological, but to graphically picture the way that the Word of God penetrates the deepest part of who we are.

And the writer wants to be clear that that penetration by God's Word means that we cannot hide who we are from God. Verse 13 closes this thought with that idea. **¹³And no creature is hidden from his sight, but all are naked and exposed to the eyes of him to whom we must give account.** I pointed out two weeks ago from these verses that this means you can't hide from God. And while you may be able to fool others even in the church that you are one of God's people, you can't fool God as to your true spiritual state. But this passage is not just a negative warning of judgement, but a positive statement that God knows us...and that is a good thing! Notice first that the writer has moved smoothly from talking about the Word of God to talking about God himself. He says, **"his sight"** and **"eyes of him."** This again shows the close connection of God's Word to God himself. You really cannot separate the two, meaning that God's perfection is inherent in His Word. But how do we see this final verse in a different light than just judgement. Its in the point that **John Calvin makes in his Institutes in the section on knowing God and knowing ourselves. He points out that "it is certain that man never achieves a clear knowledge of himself unless he has first looked on God's face, and then descends from contemplating him to scrutinize himself."** I would summarize this by saying, "The clearer our view of God, the clearer our view of ourselves, our sin, our need, and our dependence on Him." We cannot know ourselves and what is best for us apart from knowing God. So, the Word of God becomes absolutely vital to that

understanding of ourselves. And the Word of God then becomes a gift from God himself so that we do not go down the path of disobedience that Israel took which has been the focus of much discussion that has come before these verses. Through God's Word, we come to learn of him and to trust him, no matter what his providence is taking us through in our lives. The more we come to learn of him and trust him, our satisfaction in him grows. He becomes all that we want and need, the deepest desires of our heart are fulfilled in him. This is why we must be students of God's Word. The truth or doctrines found within it must remain central in our lives. And what is central to the Scriptures should become primary in our lives. And the central message of Scripture is not a thing, it is a person, Jesus Christ. Being in the Word of God leads us to Christ, and then to Christlikeness once we believe in him. Jesus is the incarnate Word of God made flesh. [John 1:14 says, 14 And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.](#) Our goal as the people of God, who are followers of Christ, is to be like Jesus Christ. And in order to be like the Word who became flesh to die for us, we must study and know the written Word that reveals that Word to us. Let's be people of the Word, in God's Word, to know God's Word, Jesus Christ and have our lives changed by that powerful Word. Let's pray.